

<領域：人間と社会>

人間の尊厳と自立

問題 1 Aさん(78歳, 女性)は介護老人福祉施設で生活している。脳血管障害(cerebrovascular disorder)による左片麻痺で、杖つえを使って歩行し、自力で移動していた。Aさんは、廊下や食堂でいつも職員や他の利用者に声をかけ、誰にでも気遣う人だった。ある日、食堂のいすに足が触れて転倒して、捻挫ひだりかたまひの痛みで歩くことができなくなり、車いすでの移動になった。捻挫は1週間ほどで完治したが、Aさんは歩くことを拒み、現在でも車いすでの移動を続けている。Aさんは徐々に口数も少なくなり、「歩くことが不安だ。周りに迷惑をかけてしまう」と言い、何に対しても消極的な様子がみられた。

Aさんに対する介護福祉職の関わりとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんは口数が少ない様子なので、できるだけ話しかけないように心がける。
- 2 Aさんの自立を考えて、再び歩くことができるように何度も声をかける。
- 3 仲の良い利用者に、頑張るよう歩かすように励ましてもらう。
- 4 Aさんの担当の介護福祉職に、再び歩かすように説得してもらう。
- 5 食堂のテーブルやいすの配置を見直して、一緒に歩いてみようとして働きかける。

問題 2 障害児・者に対して、ノーマライゼーション(normalization)の理念を実現するための方策として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害の原因となる疾病の完治を目指して治療すること
- 2 障害種別ごとに、同じ職業に就くことができるように訓練すること
- 3 障害児と障害者が一緒に施設で暮らすこと
- 4 普通の生活環境に近づけること
- 5 障害者の経済的水準を一定にすること